

議 事 録

- 1 会議の名称 平成 29 年度第 1 回水戸市都市交通戦略会議
- 2 開催日時 平成 29 年 12 月 22 日（金） 午前 10 時 00 分から午前 12 時 00 分まで
- 3 開催場所 水戸市議会臨時庁舎 2 階 全員協議会室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
(名簿順) 茨城大学工学部都市システム工学科 金 利昭
茨城大学工学部都市システム工学科 熊澤 貴之
鹿島臨海鉄道（株） 鈴木 哲也
茨城交通（株） 任田 正史
関東鉄道（株） 本多 佳夫（代理）
関鉄グリーンバス（株） 長津 博樹
ジェイアールバス関東（株）水戸支店 大野 誠
（一社）茨城県ハイヤー・タクシー協会 鬼澤 秀通
水戸市住みよいまちづくり推進協議会 大関 茂
公募市民 米倉 彩乃
公募市民 鹿倉 榮
国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所 高森 治
国土交通省関東運輸局茨城運輸支局 山本 篤利（代理）
茨城県企画部交通政策課 岡崎 一裕（代理）
茨城県土木部水戸土木事務所 石川 博章（代理）
茨城県土木部都市局都市計画課 蛭町 修身（代理）
茨城県警察本部水戸警察署 仁瓶 正
水戸市市長公室 武田 秀
水戸市建設部 猿田 佳三
水戸市都市計画部 村上 晴信
水戸商工会議所 大久保 博之

※代理出席 5 名, 欠席 3 名
 - (2) 事務局 **【水戸市市長公室交通政策課】**
課長 須藤 文彦, 課長補佐 大嶋 実, 係長 小林 雅史, 主幹 小林 健典
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 議 事
報告第 1 号 平成 28 年度事業報告
報告第 2 号 平成 28 年度決算

- (3) 平成 29 年度重点施策の実施状況について
- (4) タクシーを活用した新たな移動手段の導入について
- (5) その他
- (6) 閉 会

6 配布資料

- (1) 平成 29 年度第 1 回水戸市都市交通戦略会議資料
- (2) 水戸市公共交通基本計画 実施プログラム
- (3) 公共交通マップ
- (4) 路線バス「石塚・赤塚線」チラシ

7 内容

	<p>※水戸市都市交通戦略会議規約第 7 条第 1 項に基づき、会長が進行を務めた。</p> <p>1 開 会</p> <p>【会長あいさつ】</p> <p>皆様、おはようございます。寒い中、朝早くからお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>私は、日立市の大学まで、徒歩と電車とバスで行っておりますが、寒い中、震えながら電車やバスを待っていると、車は快適だなと思います。荷物を運ぶために、たまに車で大学に行くと、改めて車は便利だなと思いますが、一方で、歩いているとき等を感じる「寒さ」を楽しむという気持ちも大事なものだと思います。</p> <p>この間、久しぶりに新潟に行ってきました。新潟駅には、レトロな趣のあるバスターミナルがありますが、その横に新たなバスターミナルが整備され、そこに連節バスが発着するようになっていました。連節バスに乗ってみると、車内には観光客もいましたし、高齢者もいました。しばらく乗車すると市役所前に着きますが、市役所のバスターミナルはきれいに整備されており、案内板等もきちんと整備されているため、気持ち良く感じました。これくらい整備されていると、バスに乗ることが楽しく感じます。水戸市もいずれこのようになるという思いを持ったところ です。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。</p>
出席者	[今年度初めての会議となるため、自己紹介]
会長	はじめに、本日の出席者数について、事務局から報告をお願いします。
事務局	昨年度までは定数が 25 名となっておりますが、昨年度末をもちまして、___委員が都合により辞職しておりますので、本日は、定数 24 名中 21 名の委員の皆様

<p>会長</p>	<p>出席又は代理出席をいただいております。</p> <p>事務局報告のとおり、出席者数が過半数となっているため、水戸市都市交通戦略会議規約第7条第2項の規定を満たし、本会議は成立しています。</p> <p>次に、本日の会議について、会議の内容から、冒頭から終了時まで公開としてよろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>[異議なしの声]</p>
<p>会長</p>	<p>異議なしとのことなので、本日の会議は公開とします。</p> <p>また、本日の議事録署名人については、本人出席の委員を指名することとし、名簿の順に従い、____委員、____委員を指名させていただきます。</p> <p>2 議 事</p> <p>報告第1号 平成28年度事業報告及び 報告第2号 平成28年度決算</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、議事に入ります。</p> <p>まず、報告第1号「平成28年度事業報告」及び報告第2号「平成28年度決算」については、関連する内容なので、一括して御審議いただきます。事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>[会議資料1～8ページに基づき、事務局から一括して説明]</p>
<p>会長</p>	<p>ただいまの説明について、意見・質問等がありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>「みとバスMAP」につきまして、バス事業者としては、とても分かりやすいマップになっていると感じますが、実際にこのマップを手にされた方の反応や意見等はいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際にマップを手にされた観光客や一般利用者の反応につきまして、調査は実施しておりませんので、正確に把握はしておりませんが、我々が把握しているところでは、水戸観光案内所の職員が、観光客や案内所に立ち寄った方に、行き方を説明する際にとっても使いやすいということで、一定の評価をいただいております。実際にマップを手にされた観光客や初めてバスを利用される方の反応をどのように把握するか検討していきたいと思っております。</p>

会長	<p>マップの残部や今後の増刷予定はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>A3サイズ（六つ折り、約15cm四方）のマップの在庫が少なくなっており、2月から始まる水戸の梅まつりに向け、在庫不足とならないように、A3サイズを増刷を予定しております。また、そのまま増刷するだけでなく、水戸観光案内所から追加で掲載してほしい事項についてリクエストをいただいておりますので、若干訂正を加えたものを本年度版として印刷する予定です。</p> <p>A2サイズ（六つ折り、約20cm四方）のマップは、A3サイズのものと同様であり、特に高齢者向けに字が大きいものが必要ではないかということで作成したのですが、こちらはまだ在庫がありますので、A3サイズのみ増刷を予定しております。</p>
会長	<p>どちらのサイズの方が使われているのかは気になるところで、私は出張で他の都市に行った際に、まずは観光案内所やホテル等で、地図とバスマップをもらいます。あとは1日フリーきっぷのようなものがあれば購入します。私としては、持ち運びやすさからA3サイズの方を持ちたいと思いますが、一般的にもA3サイズの方を持ちたいと思うのでしょうか。</p> <p>____委員、マップに関しまして、アドバイス等、他に何かございますか。</p>
委員	<p>マップ自体はよろしいのではないかと考えておりますが、少しコメントをさせていただきたいと思っております。マップの最後に400円で1日周遊できる「水戸漫遊1日フリーきっぷ」の情報が掲載されておりますが、当初は茨城交通のバス路線でしか使えなかったものを、平成28年の梅まつりから関東鉄道と関鉄グリーンバスにも協力していただき、3社のバス路線で使えるようにしました。フリーきっぷを使って茨城交通のバスで偕楽園に来られた方が、帰りに関東鉄道のバスに乗ろうとしたときに、これまではフリーきっぷで関東鉄道のバスには乗れなかったため、その対応に関東鉄道とバスの運転手にかかなりの負担をかけておりました。</p> <p>フリーきっぷが3社のバス路線で使えるようになってからの販売状況につきましては、梅まつりの際は、電車で水戸駅に来る人数がほぼ一定であるため、それほど増えてはいないのですが、それ以外の月は20%以上販売が伸びており、関東鉄道、関鉄グリーンバスに協力をいただいて周遊しやすくなったものと考えております。</p> <p>水戸市にも協力していただき、フリーきっぷのPRにもっと力を入れていきたいと思っております。</p>
会長	<p>フリーきっぷに限らず、バス事業者間で協力できるところは協力して進めていただければ、とても便利になると思います。また、水戸市でもフリーきっぷのPRに取り組んでいただければと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>資料の4ページに、「モビリティ・マネジメントの実施」があり、これはとても</p>

事務局	<p>大事な取組だと思っているのですが、実施したねらいとその反応はどうだったのかを教えてください。</p> <p>平成 28 年度は、小学校 4 校で、バス事業者に御協力をいただいて実施しました。これまでよりも対象とする小学校を拡大したということもあり、初めて実施した小学校もありました。実施のねらいにつきましては、今後、中学、高校と進学するに当たり、バスに乗る機会が増えてくることから、バスの乗り方、車内でのルールを学んでいただき、小さいうちからバスに慣れ親しんでいただくことを意図して実施しているところです。実施した小学校におきましては、学校の先生にも好評ということで、一定の成果をあげていると考えておりますが、小学生だけを対象としては不十分ですので、一般の成人や高齢者を対象とした教室を実施する等、事業の拡充を図っていきたいと考えております。</p>
会長	<p>なぜ中学生と高校生は対象としないのでしょうか。私は、水戸キャンパスで授業がある際、朝 7 時 30 分くらいに水戸駅でバスに乗って大学まで行きますが、沿線の中学生や高校生の乗り方は相当ひどい状況です。車内はとても混んでいますが、隣の席にかばんを置いていたり、途中で高齢者が乗ってきても席を譲る気配もありません。そのようなときは、座っている中学生や高校生を立たせて座らせてあげますが、実際にバスを利用している中学生や高校生にまで対象を拡大して、学校と協力しながら乗り方を教えていかなければならないのではないかと考えております。乗り方教室等のモビリティ・マネジメントを中学生や高校生にまで拡大していくのはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>小学生を対象とした乗り方教室につきましては、学校の授業の時間内に開催するのが妥当な方法だと考えておりますが、中学生や高校生を対象とした場合、授業中に時間を確保し、そこに生徒に集まってもらって、一括して指導するという方法が最適なのかということはよく考えなければならぬと思っております。中学生や高校生に対する指導のあり方につきましては、生徒に一番伝わる方法を今後検討していきたいと思っております。</p>
会長	<p>____ 委員、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>高校生の乗車マナーが悪いというのは、私も目にします。夕方の時間帯にバスに乗ると、座席を占領していたり、お金を落としたりしているのを目にします。</p> <p>中学生については、学区外に出る際は、親の送迎か公共交通を利用するよう言われているので、中学生を対象とした乗り方教室を実施してほしいと思っております。水戸市が中学生議会という取組を実施していると思っておりますが、普段の勉強以外にも、そのように水戸市について考え、提案する時間があるので、そういう時間をうまく使って、公共交通について考えるということもできるのではないかと思います。</p>

<p>会長</p>	<p>バス事業者にお聞きしたいと思います。朝の時間帯に水戸駅北口のバスのりばにいる整理員やバスの運転手が、子どもたちに対して強く指導してもいいのではないかと思います。見ているとかなり丁寧に言っているように感じます。子どもでもお客様なので、あまり強くは言えないものなのですか。</p>
<p>委員</p>	<p>その言い方はとても難しく、度をを超えていると受け取られてしまうとクレームにつながりますし、クレームになると今度はその対応に時間を取られてしまいます。私たちもマナーに関して問題意識は持っております。車内で騒いだり、高齢者に席を譲らなかつたり、隣の席に荷物を置いて他の人が座れないようにブロックしているというケースも見られます。その悪いマナーが身に付いてしまい、大人になってもそのようなことをする方がいらっしゃいます。それがまち全体や公共交通のマナー向上を阻害しているということもあるので、どこかでしっかりとその教育をやらなければならないと思っております。ただ、バス事業者だけで解決するのはとても難しい問題ですので、学校や保護者等も含めて、根気強く取り組んでいかなければ変わっていかないのではないかと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>バス事業者だけで解決してほしいと言うつもりは全然なく、モビリティ・マネジメントをもう少し広い視野でとらえて、良き市民を育てるという観点から取り組んでいただきたいと思っております。空いている席に荷物を置いたり、奥に詰めればもっと乗車できるのに、運転手が注意しても入口付近にたまっていたり、荷物を床に置いたままにして、降りる人がいてもどかさそうとしないため、降りる人は荷物を跨いで降りていく等、このようなことが頻繁に起こっており、あまりにもひどすぎます。さきほど御意見があったように、大人になってからも悪いマナーが続いてしまい、気持ち良くバスに乗れないという状況があります。広い視野で市民教育という観点から変えていかないと、水戸の文化は育たないですし、ホスピタリティとは何を言っているのか、もう少し根底から考える必要があるのではないかと思います。これにつきましては、水戸市において学校教育の部署とも連携を取っていただき、何か工夫して取り組んでいただきたいと思っております。是非お願いします。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今はお客様からの御意見が結構ありまして、例えば、運転手が中学生や高校生に指導する際に、少しでも話し方を変えてしまうと、運転手が高圧的な態度だったと言われてしまいます。各バス事業者は工夫して対応しているとは思いますが、子どもに指導する前に、まずは社員教育が優先になってしまうという感じがします。</p>
<p>会長</p>	<p>子どもの教育の前に、親の教育をしないといけないということですね。本当に深い問題だと思いますが、公共交通に気持ち良く乗るということだけではなくて、広い視野で、水戸の良き市民を育てるとか、文化を作るという観点から取り組んでい</p>

委員	<p>ただければと思います。そのために公共交通を一つの材料として使うというようにとらえていただいた方がいいのではないかと思います。このモビリティ・マネジメントは、広い視野で丁寧に少しずつでも事業を拡大して行っていただきたいと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>それでは、報告第1号及び報告第2号については、承認してよろしいでしょうか。</p> <p>[異議なしの声]</p>
会長	<p>異議なしとのことなので、承認することとします。</p> <p>議事は以上となります。</p>
<p>3 平成 29 年度重点施策の実施状況について</p>	
会長	<p>次に、次第の「3 平成 29 年度重点施策の実施状況」について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>[会議資料9～11ページに基づき、事務局から説明]</p>
会長	<p>ただいまの事務局の説明について、御意見、御質問、アドバイス等がありましたら伺っていきたくと思いますが、まずは私から質問させていただきたいと思えます。</p> <p>資料10ページの「バス専用レーンの規制徹底・拡充」につきまして、以前、学生が、バス専用レーンの規制が徹底されておらず、混乱や渋滞を招いているため、改善した方が良くという内容の課題レポートを出してきたことがあります。今回の取組で非常に良くなったと私も実感しているところです。水戸警察署では取締り等に御協力いただいているということですが、何かコメント等ございますか。</p>
委員	<p>バス専用レーンにつきましては、渋滞が予想される朝の時間帯に、国道50号の大工町交番等で、通行指導を実施しております。警察官が立っているとバス専用レーンを通行せずに規則を守るという状況が見られますので、引き続き、このような取組を実施し、バスのスムーズな運行ができるようにしていきたいと思えます。</p>
会長	<p>ある程度の期間で根付いていけばいいのではないかと思いますので、定着するまでの間、関係者の皆様で御努力いただきますようお願いしたいと思います。</p> <p>バス路線再編に関するバス事業者との協議につきましては、資料の2ページに平成28年度の協議経過があり、資料の9ページにあるように、今年度も引き続き御協議いただいているところです。バス路線再編につきましては、バス事業者だけで</p>

委員	<p>なく、関係機関、それから市民も巻き込んで、より良いものを作っていかなければならないということですが、バス事業者からこの場で言っておきたいこと等、何かございますか。</p> <p>バス路線再編（案）の中で、酒門方面から水戸駅に向かう速達性のある路線について水戸市から提案されており、調査等をしていただいているところです。確かに、距離的には、水戸駅の北口に向かうよりは南口に向かった方が近いという状況ですが、道路の交通量や信号通過の際の所要時間等の関係で、北口に向かうより時間がかかってしまうということでは、利用者からは敬遠されてしまいます。そのようなことが懸念されます。バス専用レーンを設置するというのはなかなか難しいとは思いますが、路線環境についても同時に見直していただければ、バス路線再編について前向きに検討されていくのではないかと思います。</p>
会長	<p>路線環境という言葉が出ましたが、交通量や信号等、バス路線の再編と併せて考えていかなければならないことがあると思いますので、何か難しいことがあった際は、できないから終わりとするのではなく、できない原因や理由を考えて、関係者間で何か工夫できる余地があれば工夫をして、少しずつでも前に進んでいただきたいと思います。</p> <p>社会的ジレンマという言葉があります。問題に対して、長期的・広域的に考えると、みんなで協力して取り組んでいかなければ、全員が悪い状態になってしまうということが分かっている、それぞれの個人が短期的・身近なところで考えると、なかなか問題が解決しません。それを放っておくと、中長期的には全員が悪い状態になってしまうという問題が社会的ジレンマです。バス事業者だけに任せるのではなく、モビリティ・マネジメントを通して考えていかなければならない部分もあると思いますが、道路管理者や市民等、関係者のみんなが協力して取り組んでいく必要があると思います。</p> <p>バス路線再編につきましては、引き続き、関係者間で協議をお願いするというところでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>[特に異議なし]</p>
会長	<p>平成 29 年度の重点施策につきましては、様々な取組を進めていただいております。資料 10 ページの「インフォメーション施設の整備」につきましては、茨城大学の学生が取り組んでいるということですが、大学では、現在、学生教育の一環として、PBL、プロジェクト・ベースド・ラーニングと言って、地域の問題の解決を通して、様々なことを学び、力を付け、社会に出るための訓練をするというような取組を実施していますので、そのような取組の中で、学生のアイデアをうまく利用していくというのは非常に良いことだと思います。もう少し規模を大きくして実施するとか、問題解決策について学生に募集をかけて競わせるとか、様々なやり方</p>

	<p>があると思いますので、是非大学と協力して、学生をうまく巻き込んで取り組んでいていただきたいと思います。</p> <p>皆様から何か御質問、アドバイス等がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>「バス専用レーンの規制徹底・拡充」につきまして、カラー舗装工事を行ったとのことですが、その効果等を把握しておりましたら、お教えてください。</p>
事務局	<p>以前からカラー舗装はされておりましたが、退色していたということもあり、この度、常陸河川国道事務所が新たに整備したものと認識しております。バス専用レーンの通行状態等を事前に調査しておりませんでしたので、事後の評価を今回お示しすることはできませんが、見ている限りでは、カラー舗装の黄色がとても鮮やかであるため、一般車がバス専用レーンを走りづらくなっており、抑止効果は相当上がっているように感じます。日中は、お店の営業時間となるため、荷捌きの車がカラー舗装された車線に駐停車してしまい、バスが車線変更せざるを得ないという状況が見られます。</p>
委員	<p>バス事業者では何か効果を感じておりますでしょうか。</p>
委員	<p>感覚的なとらえ方になりますが、この区間の運行はスムーズになったと感じております。また、この場では可能かどうか明言はできませんが、この区間において、どの時間帯にどれだけ運行時間が短くなったのかというような前後を比較したデータが取れるかもしれないので、確認してみようと思います。もしデータが取れた際は、水戸市に報告して、このような場で報告ができるかもしれません。</p>
委員	<p>さきほどバス路線再編の話の中で、酒門方面から水戸駅南口に向かう路線に再編すると、交通渋滞や信号待ち等で時間がかかるかもしれないので、路線環境の整備も行ってほしいという御意見がありました。それは当然のことだと思いますので、そのようなところにバス専用レーンを設置していく、水戸駅の北口方面だけでなく、南口方面にも設置していくということも、併せて考えた方がいいのではないかと思います。そのような検討はされているのでしょうか。</p>
事務局	<p>現在、バス路線の再編を3つの方面で検討しており、さきほどお話のありました酒門方面につきましては、水戸駅北口に向かっているバス路線を水戸駅南口に到達できるような形で再編ができないか御協議をさせていただいているところです。それを達成するために、幹線道路である国道50号バイパスや水戸駅南口と国道50号バイパスを結ぶ幹線市道39号線にバス専用レーンを設置する等の検討が必要になってくると思いますが、現状では、バス専用レーンの設置等の具体策の検討には至っていない状況です。</p> <p>水戸駅南口につきまして、バスのりばは比較的余裕がありますが、バスを待機さ</p>

委員	<p>せておくスペースがないという御指摘をいただいておりますので、数台程度にはなりますが、バスの待機場所を確保することで、少しでも再編しやすい環境を提供できるよう水戸市でも考えているところです。</p> <p>バス路線の再編が、おそらく一番難しく、大事なところだと思います。資料の協議経過を見ますと、昨年度は協議回数が多かったのですが、今年度は3回ということで、皆様が難しい状況にあるのではないかと読み取れます。公共交通基本計画の実施プログラムを見ますと、平成30年度までが第1次再編の予定となっております。今年度さらに協議をしながら進めていくのだと思いますが、是非、様々なところで関係者に御協力をいただきながら、新しい知恵も出しながら取り組んでいただければと思いますので、引き続きよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>バス路線再編のスケジュールにつきましては、実施プログラムでは平成30年度までと記載しておりますが、これは協議期間や手続期間を含めて平成30年度までと考えており、現在のところ、平成31年4月から第1次再編による運行を開始することを目標としております。期間としてはあと1年と少ししかないという状況ですので、スケジュールをきちんと意識しながら作業を進めていきたいと考えております。今年度の協議経過では、年度前半に何回か協議して以降、時間が空いてしまっているように見えますが、7月、8月にバス事業者に再編の具体的な提案をしたところであり、バス事業者にとっては、それを実施できるのかどうかということは、感覚的な問題ではなく、実際にバスの運行を組めるかという、かなり緻密な作業が必要になっているということを伺っておりますので、検討に時間がかかってしまっているのは、やむを得ないところがあると思います。引き続き、バス事業者と協議をさせていただきながら、三つの方面すべての再編ができるかどうかは分かりませんが、平成31年4月に第1次再編による運行が開始できるように進めていきたいと考えております。</p>
会長	<p>国道50号のバス専用レーンにつきまして、常陸河川国道事務所から何か補足等がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>事前に茨城県警察やバス事業者と調整させていただき、オレンジ系の色ということになり、以前は薄層舗装であったため、はがれやすいものでしたが、今回はトップコートという形で、はがれにくいものにしておりますので、これまでよりは色が長持ちするのではないかと考えております。</p>
会長	<p>引き続きお願いしたいと思います。 他に御意見等がありますか。</p>
委員	<p>これからの社会は高齢化がかなり進み、バリアフリー化が大きな課題になると思</p>

	<p>います。現在、バリアフリー基本構想の策定を進めているということですが、具体的にはどのような方策が検討されているのか、可能な範囲でお教えてください。</p>
<p>会長</p>	<p>これは別の協議会で検討しているものだと思いますので、簡単に御紹介をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>バリアフリー基本構想につきましては、バリアフリー法に基づく法定協議会を交通会議とは別に設置しており、施設設置管理者や実際に施設を利用される方等に委員になっていただき、議論を進めているところです。総合的な内容になりますが、市内全域のバリアフリー化を進めていくために、まずは重点整備地区というものを市の中心部に設けて、そこの道路や施設を重点的に整備していくということで、現在、計画の内容を取りまとめているところです。内容につきましては、来月にパブリック・コメントという形で、計画の素案を公表していきたいと考えておりますので、その機会に御覧いただき、御意見をいただければと考えております。順調に作業が進めば、年度末の計画策定を予定しております。</p>
<p>会長</p>	<p>バリアフリー基本構想につきましては、公表される資料を御覧いただければと思います。</p> <p>他に御意見等がありますか。</p> <p>今回が今年度第1回目の交通会議ということで、その間にどのようなことを行っていたのか気になっておりましたが、様々なことを進めていただいているということが分かりましたので、引き続き、関係者の皆様と協力しながら前に進めていただきたいと思います。</p> <p>4 タクシーを活用した新たな移動手段の導入について</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、次第の「4 タクシーを活用した新たな移動手段の導入」について、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>[会議資料 12～17 ページに基づき、事務局から説明]</p>
<p>会長</p>	<p>タクシーを活用した国田号から始まった取組になりますが、資料の考察にあるように有効な取組と考えられるため、もう少し継続的に実験を進めていくということで、収支率を30%くらいにするために利用促進を図る必要があるという課題はありますが、利用者の利便性から考えると非常に有効な取組であるという報告でした。</p> <p>関係者の方々から先に御意見、コメントをいただきたいと思いますが、はじめに茨城県ハイヤー・タクシー協会から何かございますか。</p>

委員	<p>国に提言していたタクシーの需要閑散時間帯割引運賃につきまして、水戸市に協力いただき、実証実験をさせていただきました。</p> <p>現在のタクシー事業は、規制緩和、バブル崩壊前の3割程度の収入しかない状況の中で事業を行っております。そのような状況であるため、昼間の時間帯はどうしても閑散時間帯となり、水戸駅を見ていただければ分かると思いますが、多くのタクシーが待機しており、1時間から2時間に1台程度出ていくというのが、現在の状況です。そのような中で、閑散時間帯に余っている車両を地域で活用していただけないかということで、国と相談を重ねてきました。タクシーには定められた法定運賃があり、それを割り引くことは法律違反になりますので、国の許可が必要となります。観光地におけるルート別運賃につきましては、すでに通達が出されており、国の認可を受ければ、運賃を5割まで割り引くことができます。それであれば、車両が余っている閑散時間帯においても、5割まで割り引いた運賃でタクシーを利用してもらうという取組ができるのではないかとということで、国に提言しておりました。それが認められ、茨城県において実証実験を実施してみてくださいという話になったときに、水戸市に提案をしたところ、手を挙げていただき、国田地区で実証実験を実施することになったものです。</p> <p>乗合タクシーは、乗合事業なので、タクシー事業ではありません。そのため、タクシー事業者が、乗合事業の許可を取らないと、乗合タクシーを運行することはできません。2007年に地域公共交通活性化再生法が施行され、そこに公共交通としてタクシーも位置付けられたということがあり、乗合事業ではなく、本来のタクシー事業でこのような実証実験ができないかとということで提言をさせていただきました。他の自治体で運行している乗合タクシーは、1人当たり300円程度の料金で利用できます。セダン型のタクシーは1台当たり4人まで乗れるので、3人乗ってもらえれば、1台当たり900円程度の売上になります。それであれば、1台当たり1,000円で利用してもらい、利用者が1,000円は高いと思えば、相乗りをもらうことにより、1人当たりの支払い金額を少なくするという形で実証実験を実施しました。資料の12ページに、参考として「需要閑散時間帯割引のイメージ」があります。タクシー事業者が運賃の5割を負担し、残りの5割を自治体と利用者が負担します。利用者負担を1回1,000円にすると、1時間に3回利用してもらえれば、自治体の負担は0円になります。</p> <p>乗合タクシーの場合は、新たに予約センターのようなものを設けるため、システム設置費用やオペレーターの人件費等の費用がかかることになり、それは自治体等が負担することになります。今回の実証実験では、国田市民センターに車両の待機スペースを水戸市で用意していただきましたが、予約につきましては、タクシー事業者のシステムを活用し、利用者が直接タクシー事業者に電話予約することとしました。乗合タクシーは、事前に予約の上、1時間ごとに運行しますが、今回の実証実験では、事前に予約をしていなくても、予約が空いていれば当日でも利用できることとしたので、利用しやすいものになったのではないかと思います。</p> <p>今回の実証実験では、利用者はあまり多くなく、収支率も10%程度でしたが、実</p>
----	---

	<p>験期間が短かったということもあるので、今後これが浸透していけば、利用者はもっと増えていくのではないかと考えているところです。</p>
<p>会長</p>	<p>有効性は認められたということで、今後も引き続き御協力いただければと思います。</p> <p>茨城交通の営業所を指定目的地にさせていただいたということで、タクシーを活用したこのような移動手段が導入されたことに対して、営業所を交通結節点にしたということも含めて、バス事業者の立場から一言コメントをいただけますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>茨大前営業所から水戸駅方面に向かうバスの本数がかなり多いこと、始発になるので余程のことがない限りは座ることができること、タクシーが出入りするスペースがあること、このような条件がそろっていたため、茨大前営業所が交通結節点になったものと思います。路線バスも1日何本か国田地区を走っているのですが、それを利用できない方が、自由な時間にバスの本数が多いところに出て来て、そこからバスに乗っていただけるということは、バス事業者にとってもプラスなことですし、それで水戸の移動がしやすくなるということは、市民にとっても良いことであると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>バス事業者にとって、このような取組は、特に支障になるものではないと受け取ってよろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>支障になっていることはありません。</p>
<p>会長</p>	<p>市民としては、評判はいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>水戸市には32の地区会がありますが、その中で市民懇談会をやっており、私の地区では、市街化調整区域で公共交通もない地域があるので、デマンドタクシーを導入してほしいという意見がありました。今回、国田号の実施状況の説明があり、今後、エリアⅢの11地区に拡大していく計画であるという説明がありました。11地区すべてに国田号方式が導入されるのは、相当時間がかかるのではないかと考えておりますが、何年計画なのかをお教えください。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料16ページの「本格実施までのスケジュール」になりますが、現時点での想定ということで提示したものであり、このように実施していくということは、まだ市内部でも決定されてはおりません。このような案に対して、皆様から御意見をいただきたいということで、本日説明させていただきました。</p> <p>1年目につきまして、すでに国田地区で先行して運行しているのですが、引き続き運行するというのであれば、第1期モデル地区は国田地区ということになります。</p>

	<p>そうすると、2年目は平成30年度からということになりますが、そこから2地区程度ずつ導入することができれば、おおむね5年で、この11地区に関してはカバーすることができると考えております。水戸市側で決めたものをそのまま導入していくということだと、地域の方々に自分たちの公共交通であるという意識が生まれにくいと思いますので、運行に係る基本ルールを提示し、興味のある地区の方に手を挙げてもらうという形で進めることができると考えております。</p> <p>また、笠間市と水戸市の隣接地域、内原地区ということになりますが、その地域を対象に、現在、具体的な行き先等、どのようなニーズがあるかということ进行调查しております。その調査の結果によっては、国田号方式ではなく、もっと良い方法があるということも考えられるので、その調査結果も踏まえながら、慎重に検討していきたいと考えております。</p>
会長	<p>住民の方からデマンドタクシーを導入してほしいという意見があったとのことでしたが、国田号方式ではなく、デマンドタクシーにしてほしいというような意見はありませんでしたか。</p>
委員	<p>意見を述べた方は、国田号のことは知らなかったのではないかと思います。</p>
会長	<p>そうすると、今の段階では、国田号方式による取組をもう少し継続してみるということによろしいですかね。</p> <p>地区からの事業応募で協議を進めていくというところがポイントだと思います。自分たちの地区の交通を何とかしたいという場合には、地区の皆様にも頑張ってもらっていただき、行政や事業者等の関係者と一緒になって取り組んでいくということなので、市民のやる気が前提になってきますし、それがないと上手くはいかないということです。</p>
委員	<p>茨城運輸支局から何かコメントはありますか。</p>
委員	<p>今後、本格運行に向けて、関係自治体やタクシー事業者と協力していきたいと考えております。また、制度化に向けて、国から通達等が示された際には、お示ししたいと考えております。</p>
会長	<p>それでは、本日の会議全体を通して、御意見や今後のアドバイス等がありましたらお願いします。</p>
委員	<p>中心市街地の活性化という観点からの意見になります。交通会議で、主に議論されているのは、現在ある資源の中で、ネットワークを作り、効率的に改善していくことだと思いますが、水戸駅と大工町間は1日900本もの路線バスが走っており、5台続けて空のバスが来ることがあるような状況ですので、水戸市が100億円くらいかけて、大工町にバスセンターを作り、そこから各方面に向かうような形にでき</p>

	<p>ないかと考えております。水戸駅と大工町間は、電気バスでシャトル運行とし、歩いて楽しく、買い物もしやすく、快適で、排気ガスがなく、音も静かというような環境を、10年から15年かけて作っていければと考えております。トヨタ自動車が、2030年を目途に、販売台数の半分以上を電気自動車にしているような状況ですので、10年後には何がどうなっているか分からないという状況です。ITもIoTも進んでいると思います。今考えてみれば、10年前にはスマートフォンはなかった訳ですから、時代の変化を見据えて、インフラ投資をしていくということも検討していただきたいと考えております。中心市街地が活性化すれば、固定資産税が高くなるので、投資しただけのリターンが水戸市にもあるはずで、中心市街地の魅力アップのためにも、交通は大事だと思います。大工町に少しお金をかけて、2、3階建てのバスセンターを作れば、水戸駅と大工町間のバスを減らすことができるのではないかと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>今の御意見は大事なところで、将来像を描いていかなければなりません。これに関しては、交通会議だけではなく、水戸市において検討していると思いますが、将来像について、どのようにお考えですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>平成35年度までを見据えた公共交通基本計画においては、まずは既存の交通資源をきちんと活用することを中心としておりますが、新たな移動手段の導入や都市景観を一新するような新たな車両の導入といった考え方も記載しております。中心市街地は、水戸市にとって、とても重要な地区ととらえており、その活性化に向けては、交通が重要になってくると考えております。交通に関する拠点を、水戸駅とそこから2km離れた大工町の2箇所に設けるべきかどうかということについては、かなり慎重な議論が必要だと思っております。水戸市としては、現在、大工町に大きな交通の拠点を設けるという構想はない状況ですが、いただいた御意見につきましても、引き続き検討していきたいと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>水戸市の確たる将来像をきちんと持った上で、公共交通の話や交通会議を進めていく必要があるだろうということだと思います。国からも示されているように、交通とまちづくりは一体で考えていく必要があるということをお忘れのないようにしていただきたいと思っております。次のステップ、次の時代に対応するために、様々な投資をしている自治体もあるので、水戸市も10年後、20年後の将来像を持った上で、強力に施策を進めていっていただきたいと思っております。</p> <p>最後になりましたが、茨城県から、全体を通して何かアドバイス等がありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>人口が減少していく中で、都市機能や居住地域をある程度整理し、交通機関の運行頻度も上げて、効率的で持続可能な社会を作っていくということで、特に水戸市は、茨城県の中では率先して立地適正化計画を策定していただいております。この</p>

<p>会長</p>	<p>計画は、ある程度将来像を予測しながら策定していくものなので、他の計画とも連携していただきたいと思います。都市機能や居住地域が中心部に集まると、周辺部の方々の生活をどのように確保していくのかということが、非常に大きな問題になると思っております。水戸市は、土浦市とともに最初に立地適正化計画の策定を進めていただいておりますので、公共交通と連携した、モデルになるような良い計画を作っていただければありがたいと思っております。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p> <p>ないようなので、本日の会議は以上となります。進行を事務局にお返しします。</p> <p>4 閉 会</p>
<p>事務局</p>	<p>[閉会のあいさつ]</p>